

# 優良農家の紹介

## 消費者ニーズにあわせた味本位のブドウ栽培

### 1 はじめに

豊岡市下鶴井の田中徳夫氏は、1976年にブドウ栽培を始め、栽培経験33年のベテラン生産者である。収穫したブドウは、すべて直営の直売所で販売し、常に消費者に喜ばれるブドウ生産をめざしている。

### 2 田中氏の経営内容

労働力：本人、妻、長男、長男の妻、臨時雇用  
経営作目：露地ブドウ100a、施設ブドウ6a、柿5a、いちじく5a、加工用野菜15a

### 3 顔の見える販売で消費者の声を聞く

同氏は、経営開始当初から生産したブドウのすべてを直売及び宅配で販売している。消費者の声を直接聞き、その要望に応えるブドウ生産が特徴である。

特に「ピオーネ」「藤稔」「リザマート」「竜宝」「紅巴拉ード」「瀬戸ジャイアンツ」等の25品種を栽培し、様々なニーズに応えられるようにしている。

また、ブドウ本来の味を求めるファンのために、巨峰の「種あり栽培」も実どまり不良や果粒の揃いそろが悪い等困難を克服して挑戦しつづけている。

### 4 後継者と共に

2007年には長男がUターン就農し、父にブドウの栽培技術を習いながら熱心に農業に取り組んでい



ブドウの収穫作業を行う

る。また、長男の妻も「直売所の看板娘」として頑張っている。

### 5 かん水装置の導入で高品質化をはかる

近年、夏季の降雨が不安定で、干ばつとその後の降雨による土壌水分の上昇で果粒の裂果が増加していた。そこで、ソーラー自動点滴かん水装置を導入した。同装置は、太陽電池を利用し水を高さ1.7mに架設したタンクに貯水し、満水になると電磁弁が開放され落差によってかん水が行われる。電源がない果樹園にも設置でき、日射量に応じて動作するため晴天が続くとかん水量が増え、土壌水分の安定に貢献している。

設置後2年が経過しているが、かん水労力の軽減と裂果防止に効果を発揮している。

### 6 今後の展開

ブドウは贈答品、特に盆の供え物として購入されることが多いが、露地栽培のため盆時期に収穫できず需要に応えられていない。2007年、2009年に各1棟のハウスを設置し、盆前需要への対応を図るなど一層の消費者ニーズに応える経営をめざしている。

椿野 佳奈子（豊岡農業改良普及センター）  
（問い合わせ先 電話：0796 - 26 - 3708）



直売所の様子

ひょうごの農林水産技術 No.168

平成22年3月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47 - 2400